

講義名	イベントプロデュース論			授業形態	
担当教員	西村 典芳	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

イベントとは、『非日常を設定し、複数以上の人間を集め、時間と空間を共有することで、ある目的を達成する手段として実施する行事・催事のこと』です(出所：日本イベント産業振興協会)。その目的には、企業や業界団体などが、社会や市場での利益や価値を増大させる、地域コミュニティや行政機関等が、地域の賑わいづくり、住民同士の連帯感、地域への愛着を醸成する、地域コミュニティや文化芸術団体等が、文化芸術、伝統的な祭りことなどの保護や継承をする、などが挙げられます。このように、イベントは、経済的・社会的・文化的な効果の期待できる有効な手段です。この講義では、イベントの基礎的な知識習得のみならず、直面する課題に対処したイベントの企画から運営までできるようになることを目指した内容で構成されています。講義の中では、具体的なスポーツイベントの調査をしたデータから、問題点と市場機会の発見、イベントプロモーションの手法と企画を考察します。

到達目標

- ・イベントの基礎的な知識(役割、歴史、マネジメント)を得ることが出来ます。
- ・イベントの基本的な計画策定ができるようになります。
- ・課題の発見と解決に必要な情報を見定め、適切なメディアプロモーション手法の選択、一貫性のある企画内容の立案、運営上のリスクの抽出ができるようになります。

提出課題

- ・毎回、授業内容の課題についてリアクションペーパーを書いてもらいます。
- ・授業内容から、あるいは自分の考えを整理してまとめて提出してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・課題のリアクションペーパーからの疑問や理解に対して、次週の授業のはじめに解説します。
- ・質問欄に書かれた質問に対する答えも回答します。

評価の基準

- ・授業回数の3分の1(9回)以上を欠席すると期末テスト(あるいはレポート提出)の受験資格(単位)はありません。
- ・評価については、毎回の課題レポート提出、授業態度など40%、期末テスト(または期末レポート)60%として、総合評価とします。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業で学ぶ基本は重要ですが、イベントに関する情報は日々変化しますので、常に新聞等で新しい情報も入手してください。
- ・授業に参する注意は次の通りです。
- ・服装指定を行う予定です。
- ・授業中の許可した時間以外の携帯電話・スマホの使用は禁止します。
- ・そのほか私語、遅刻等は許可しません。注意しても改善されない場合は欠席扱いとなります。
- ・授業中、わからないところや疑問に当たっては積極的に質問してください。

教科書

・使用しない。

参考図書

その他

- ・必要に応じてプリントを配布します。
- ・参考文献・・・必要に応じて紹介します。

授業計画

1. イベントの概念と分類
2. イベントの歴史
3. メディアとしてのイベント
4. イベントの企画と計画(イベントづくりの段階と企画・運営)
5. イベントの企画と計画(基本計画と実施計画、企画書の構成)
6. イベント企画書とプレゼンテーション
7. イベント調査のやり方
8. イベント事例研究(神戸マラソン)
9. イベントの制作推進と管理
10. イベントの告知・集客
11. イベント計画の実践事例(カミングコウベ)
12. イベント運営の全体像
13. イベント運営業務のポイント
14. リスクマネジメントと安全管理
15. これからのイベントマネジメント

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・毎回の授業内容が変わるため、必ず予習、復習が必要です。
- ・観光に関する情報は日々新しくなっていますので、教科書以外にも新聞やメディアのニュースを積極的に読んで入手してください。
- 具体的には
 - ・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。2時間程度
 - ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を整理してください。2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、イベントを使って企業や地域が直面する課題の解決や新たな価値を自ら創り出す企画力、提案力、実行力を身につけることができます。観光業界に限定せず、多種多様な企業や団体、行政機関、地域コミュニティがイベントの企画を運営するような場面で必要となる知識や技術を習得します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業は現状では、対面授業で出欠や課題提出でICTを活用することがあります。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
旅行会社の経営に26年間携わり、心と体の健康のための新しいツーリズム、「ウェルネスツーリズム」を研究し、地域の健康づくりを通じて活性化の手伝いをしています。また、自ら「サイクルツーリズムイベント」や「ウォーキングイベント」を企画運営しています。

備考

- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正が発生する可能性があります。